

命を守るため

埼玉県立伊奈学園中学校

二年 千葉 葵依

「鹿沼とか小山のばあばの家の方も雨と土砂崩れが大変だったらしいよ。」

という母の言葉を聞いたときに、どのようにして土砂災害から身を守ったらいいいのか私はわかりませんでした。その後、栃木県に住む私の祖母たちは雨がひどくなって、近くの山の土砂崩れが心配されることから避難をしたそうです。大きな被害はなかったそうですが、大変だったと祖母に教えてもらいました。地震や津波がきたときには、机の下にかくれて頭を守ったり、高いところへ避難したりする必要があるので自信をもって言えますが、このように土砂災害が起きたときのことは自信をもって言えませんでした。これは自分が体験したことないことだからだと思いました。そこでこれをきっかけに、土砂災害が起きたらどのようにして身を守るのか考えてみました。

私は、土砂災害を体験したり、実際の現場を見たことはないです。想像してみるために実際の体験した方からの話をインターネットで調べて読んで、祖母からの話を聞いてみたりしました。そこでは、水の水位がとても高くなっていたり、風の強さで折れた木が流れてきたりしていました。実際のことを聞いたり、見たりしてみてもこれは体験した人しか本当の大変さを理解できないと思いました。けれど、イメージ映像を見たり、お話を聞いたりする前よりは、私も少し大変さを知ることができたと思います。このよう

にして多くの人に、土砂災害の大変さや、どのようなことがあったかを広めていくことによって自分事として捉えられるようになるだけでなく、対策がしやすくなると思います。実際に、私もインターネットでの体験話を聞いて、自分なりの対策法を考えてみました。

土砂災害が起こったときに動くのでは遅いので、事前に対策しておくことを二つ学びました。

一つ目は対策をしたときにそれらの内容を家族として共有することです。土砂災害の影響で、家族と連絡が取れなくなってしまうときに、どこへ集合するのか、電話がかけられるようになったらどの電話番号に電話をかけたらいのかなどを家族と決めておくことによって、いざというときに迷わず、しっかり連絡できると思います。

二つ目はハザードマップを確認しておくことです。これはもちろん当たり前のことかもしれませんが、ハザードマップを確認するだけではないと思います。そうすることによって、ハザードマップがそのときになくても、自分の力で避難所へ行きやすくなると思います。このような対策をとって、土砂災害の危険度に合わせて行動することが大切であるとも気がつきました。特に大切なのは自分が住んでいる地域が土砂災害警戒区域に指定されているかどうかを確かめることです。私が住んでいる地域についても調べてみると、警戒区域になっていましたが、特区警戒区域にはなっていませんでした。しかし、ここで対策はあまりしなくて良いという考えをするのではなく、その地域の特色にあった対策をすることが最も大切だと思いました。

様々な実体験の話や映像を知ってから、どのような対策が必要か考えてみましたが一番は災害が起きないことが

大切ですが、それは難しいことです。けれど災害をゼロにすることはできないので、そのようなことにも対応できるようにしていくための防災が必要になってきます。私は中学生なので大きくできる防災対策はないかもしれませんが人それぞれが自分にできることをして、まわりの人とも協力することもできたら良いと思います。作文をかいて学んだことを活用して、自分事として動きたいです。そうすることで、災害の少ない安全な未来になると思います。いつ起こるか分からない災害について考えて、勇気をもつて行動したいです。